

號事、今日治定云々、被用後。土御門畢、

〔後法興院關白記〕明應九年十月九日、右少辨尙顯來令對面、舊主追號事、後陽成院後土御門院、兩號何可宣哉、被申所存、就群議欲被一定矣、仰詞此分注折紙、十日、昨日之申詞、注折紙付奉行辨許如常、余申詞、

舊主追號事、土御門號、遷座御事可有其憚候歟、後陽成院無巨難候哉、

〔皇年代略記後陽成〕元和三年九月廿日壬午、奉葬泉涌寺、奉號後陽成院、

〔忠利宿禰記〕承應三年十月十五日辛未、今夜酉刻、先帝御追號後光御葬送泉涌寺也櫻町院於禁中被定之由、被示

〔實久卿記〕文化十年閏十一月十一日、午刻參舊院略中、御追號奉稱後櫻町院於禁中被定之由、被示評定了、

評定了、

〔後桃園院崩御記〕安永八年十一月九日、寅刻ツヒニ崩御云々、後桃園院ト追號シ奉ル、

〔公卿補任後桃園〕安永八年十一月九日、天皇崩奉號後桃園院、

〔入道左府記〕嘉元二年七月十七日、今夜後深草院無追號之定、兼破御葬送也、

〔增鏡十一今日の日陞〕二條富小路にてかくれさせたまひぬ、略中、又の日夜に入て深草殿へいでわた

し奉る、略中、後深草院とぞ聞ゆめる、

〔滿濟准后日記〕永享五年十月廿四日、就諒闇事、尋申一條前攝政良、昨日返報今日到來了、略中、小

松院御號事、先例皆以有其寄之號所用來也、此御號當時無由緒之上、爲光孝天皇御一號之間、雖難

被用之、既爲遺詔之上者、摸後深草御號、被加後字、可被宥用乎、已上前攝政、御申詞、

〔二水記〕大永六年四月廿七日、御追號事、可爲後柏原院之由、有其沙汰云々、今度依仰各被撰申訖、中

略、御追號後柏原院治定了、桓武天皇號柏原帝也、

〔舊別記〕大永六年四月廿七日庚辰、御追號後柏原院治定、陽明准后近衛被撰定申云々、

加後字襲前帝一號